

新たな疑惑続々

全容解明ハードル高く

関電 金品受領

関西電力の岩根茂樹社長が金品受領問題で最初の記者会見を開いてから四日間で一週間の説明不足を批判されて開催した二日の再会見後も、新たな疑惑が次々と発覚した。問題の舞台も原発事業から拡大している。関電は新たな第三者委員会に調査してもらい、年内をめどに報告書をまとめるとしているが、全容解明のハードルは高い。

●面参照

■調査不足を露呈

岩根氏は再会見で、自身を含む二十人が総額三億一千八百四十五万円相当を受け取っていたことや、金品の内訳、時期、大半の氏名などを公表したが、事態は深刻度を増している。金品授受があった二十人のうち大塚茂樹常務執行役員が、原発関連工事を受注していた高浜町の建設会社「吉田開発」から百四十万円相当を受け取っていたことが判明したからだ。高浜町の元助役森山栄治氏(故人)を介さず、原発マネーが「還流」していた可能性がある。

は別に、送配電部門の幹部三人が森山氏から金品を受け取っていたことも公表したが、その後三人は太陽光発電所の工事に絡んでいた

ことが判明。森山氏の影響が強い地域に関連する事業では今後同様の不祥事が見つかれる可能性がある。関電は一連の問題を取締



記者会見を終え、引き揚げる関西電力の岩根茂樹社長(右端)と八木誠会長(右から二人目)ら。2日、大阪市で

新たに発覚した主な問題

- ・ 原発事業に携わる役員が、原発関連工事を受注していた福井県高浜町の建設会社「吉田開発」から140万円相当を受け取っていた
- ・ 岩根茂樹社長は2006年に金品受領が始まったと説明したが、関電元幹部は約20年前に「法外な品を受け取った」と証言
- ・ 送配電部門の幹部3人が、太陽光発電所の工事に絡み、森山栄治氏から金品を受け取っていたことが判明
- ・ 経営陣を監視する監査役が金品受領問題を把握していたにもかかわらず、岩根社長は報道があるまで公表しなかった

稲田氏団体に献金 元助役取締役の警備会社

関西電力役員らの金品受領問題で、自民党の稲田朋美幹事長代行が代表を務めている「自民党福井県第一選挙区支部」が、高浜町の元助役森山栄治氏(故人)が取締役だった警備会社から計三十六万円の献金を受けていたことが四日、分かった。

「面識はなし」

稲田氏の事務所は「(稲田氏と)森山氏とは面識はなかった」と説明。今回の問題を受けて「森山氏と献金に関連があるかどうかなど、事実関係を確認しているところだ。状況を見ながら対応を検討する」とした。稲田氏は四日出演したB

役会に報告せず、隠蔽していた。経営陣を監視する機能を担う監査役も、問題を把握しながら経営陣に開示させることができず、機能不全に陥っていた。関電は二日、第三者委員会を新たに設置し再調査す

ると発表。他に類似の事例がなかったかどうかを調べ、今回の問題に関する関電経営陣の対応の妥当性も検証するが、報告書をまとめるまでの時間は約三カ月。既に「く」なると関係者も多い。企業統治に詳しい近畿大の芳沢輝泰准教授(企業倫理)は「もはや関電内部の自浄能力には期待できない。徹底的に外部の視点を入れた調査を実施するしかない」と指摘している。

「儀礼的範囲超す 金品受領はなし」

北陸電力が社内調査

関西電力役員らの金品受領問題を受け、北陸電力(富山市)は四日、社内調査を行い「儀礼的な範囲を超える金品の受け取りはなかった」と明らかにした。

同社によると、役員や原子力部門の幹部、OB計十六人を対象に聞き取り調査を実施。志賀原発が立地する石川県志賀町の関係者から、儀礼的範囲を超える金品の受領はなかったとしている。

同社は今後、調査の結果を社内コンプライアンス推進委員会できりに検証する。調査対象を広げるかどうかも検討する。

関電が二日発表した調査報告書では、森山氏について「国会議員に広い人脈を有しており」と指摘した。会見で「国会議員とは稲田氏のことか」と問われた岩根茂樹社長は「(稲田氏と)面識はなし」と答えている。

稲田氏の事務所は「(稲田氏と)森山氏とは面識はなかった」と説明。今回の問題を受けて「森山氏と献金に関連があるかどうかなど、事実関係を確認しているところだ。状況を見ながら対応を検討する」とした。稲田氏は四日出演したB